

Press Release

短期集中予防サービス(C型)に関するシンポジウムのご案内 ～第84回日本公衆衛生学会総会(2025年10月29～31日@静岡市)～



齊藤 雅茂

日本福祉大学社会福祉学部 教授

masa-s@n-fukushi.ac.jp

他方で、 通所Cの実施市町村は増加傾向だが、全国的には未だ低調 (4割強)



提供元: Bing
© GeoNames, Microsoft, Zenrin

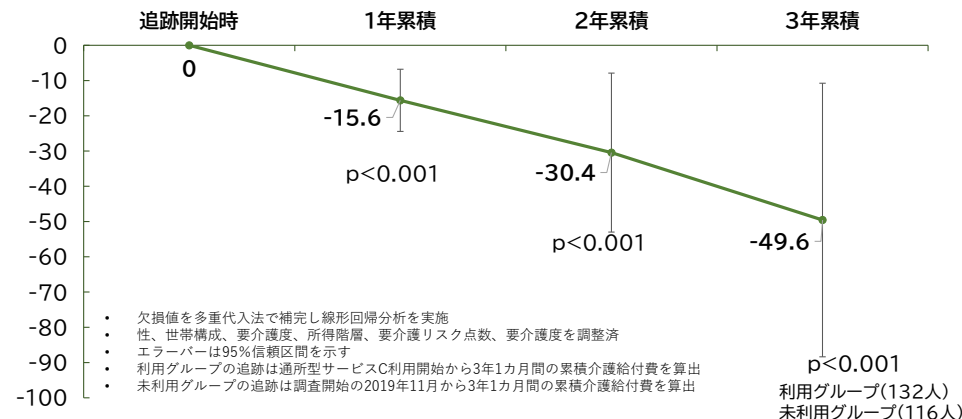
厚生労働省:介護予防・日常生活支援総合事業(地域支援事業)の実施状況(令和5年度実施分)に関する調査結果より作成
hlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000141576_00007.html (2025年9月18日閲覧可)

渡邊良太氏(愛知淑徳大学・准教授)が作成

Press Release No: 468-25-13 (8月プレスリリースで報告済み)

通所型サービスC利用グループは未利用グループと比較して 1人あたり3年間の介護給付費約50万円低い

～竹田市の利用者全体で予防給付費の23.7%に相当する約7000万円適正化～



利用グループ(データ不備者を含む)は140人であり
140人×49.6万円＝約7000万円低い
竹田市の2018～2020年度の予防給付費総額¹⁾に対して23.7%に相当する

1. 令和3年度版、竹田市の介護保険の現状について、<https://www.city.taketa.aita.jp/material/files/group/10/kaigo.pdf>

Watanabe R. et al. (2025) *Geriatrics & Gerontology International*. 25(8):1058-1064

第84回日本公衆衛生学会総会(2025年10月29～31日@静岡市)

シンポジウム72・第6会場(10月31日 13:00-14:30)

短期集中予防サービス(サービス・活動C)の効果と普及促進にむけての提言

サービスCの効果的な運営方法と全国展開に向けた知見と課題を踏まえて、行政関係者、サービスの実務者、研究者が一堂に会し、導入時の課題、効果的な運営手法、地域特性を踏まえた展開の工夫等について論議します。

【演者】

- 齋藤陽子(厚生労働省老健局老人保健課)
「サービス・活動Cへの期待と全国普及に向けた課題」
＜関連省庁の立場より＞
- 佐藤孝臣(株式会社アイトラック)
「通所型サービスCを軸とした自立支援に資する地域づくり」
＜リハビリテーション専門職の立場より＞
- 中里裕美(竹田市役所保険健康課)
「大分県竹田市における通所型サービスCを軸とした入口・出口戦略」
；自立支援に資する地域づくり」
＜サービスを主管する市区町村の立場より＞
- 渡邊良太(愛知淑徳大学健康医療科学部)
「通所型サービスCと介護給付費適正化の関連 -3年間の追跡研究より-」
＜サービスの効果を評価する研究者の立場より＞